



現代イギリスの学校教育：子ども教育学科国際シンポジウム記録

川地，亜弥子

(Citation)

教育科学論集, 27:51-52

(Issue Date)

2024-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100489613>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100489613>



現代イギリスの学校教育

——子ども教育学科国際シンポジウム記録——

Schooling in the UK after Covid-19:

On the release of the lecture recordings from the international symposium organised by the Department of Child Education, Faculty of Global Human Sciences, Kobe University

川 地 亜弥子*

KAWAJI Ayako

(*人間発達環境学研究所・准教授)

キーワード: イギリス the UK, 学校教育 Schooling, 教師教育 teacher education

1. 講演の概要

パンデミックを経て、世界の学校教育はどのように変動し、未来を描こうとしているのか。神戸大学国際人間科学部子ども教育学科国際シンポジウムとして、イギリスの学校における取り組みについて、進歩主義教育研究の第一人者であるピーター・カニンガム博士（ケンブリッジ大学名誉教授）からお話し頂いた（2023年2月7日開催）。講演前の打ち合わせで、日本の状況について2.のような簡単な情報を博士にお知らせし、日本の参加者の問題意識の前提を共有した。

講演では、最初に、現代のイギリスにおける学校教育やその前提となる文化をめぐる議論について、国家政策への批判、ジェンダー問題に関する社会運動、ケンブリッジ大学初等学校の取り組みなどをふまえてご紹介いただいた。また、イギリスでも、そもそも教員の給与が安く、教員不足が深刻な問題となっていることが紹介された。

学校教育の目標や評価についても言及され、現代のイギリスの先生の悩みについてお話し頂いた。教育内容におけるナショナリズムの問題や、経験豊富な先生の中途退職、思うような仕事ができないことなど、イギリスの新聞「ガーディアン」における教員の匿名投稿「シークレット・ティーチャー」の記事をもとに説明があった。

最後に、OECD「未来の学校」のシナリオをもとにした議論の呼びかけがあった。

渡邊隆信教授（神戸大学）の指定討論ののちに、全体討論を行った。特に、OECDのシナリオの中にある「学習ハブとしての学校」（Schools as learning hubs）について学生と博士の間で議論が展開された。なお、神戸大学関係者だけでなく、他大学教員や、高校生を含め、73名が参加した。

後日、博士から、確立した外部機関における資格・証明を重視することから、もっと柔軟な能力の認定システムへと移行していくことの可能性についてメールを頂いた。博士が、将来教師や教育関係者になる若者に高い期待を寄せていることを感じたシンポジウムであった。

なお、シンポジウムでは、パワーポイントスライド及び解説資料に日本語仮訳を付して参加者に配布した。仮訳作成にあたって、山崎洋子先生（武庫川女子大学）、山下晃一教授（神戸大学）にご助言を頂いた。記して感謝し上げる。なお、日本語仮訳を参照したい方は、川地までお問合せ頂きたい。

講演内容の詳細については、ぜひカニンガム博士の講演論考“Finding ways to future development of progressive practice: Curriculum, assessment and teacher education in the UK”（質疑応答除く、本誌掲載）をご一読頂きたい。

2. 当時の日本の状況（講演補足資料）

2-1. パンデミックと学校教育

（1）「GIGA スクール」政策

GIGA（Global and Innovation Gateway for All）スクール構想として、学校教育におけるICT環境の整備が推進された。具体的には小・中学校、つまり義務教育段階において、子ども1人にICT端末を1台配布が進んだ。

GIGA スクール構想そのものの方針決定はパンデミック前だが、その対応は2020年2月末の首相の全国一斉休校要請以降、急速に進んだ。

（2）学校の福祉的機能への注目

全国で一斉休校が行われる中で、学校の福祉的機能（給食や子どもの居場所というセーフティネットとしての機能）に注目が集まった。学校が、授業をして子どもたちに学力を形成するだけの場所なのではないということが認識された（中央教育審議会2021）。

2-2. 学校は子どもにとって安心できる場所か？

（1）不登校児童生徒

不登校児童生徒は9年連続増加している。1000人当たりの不登校児童生徒数は、2013年度に11.3人であったが、2021年度は25.7人である（文部科学省2022a）。文部科学省のウェ

ブサイトでは「登校をすることだけを求めるのではなく、子供が自分の進路を自ら考え、社会的に自立することを目指すことが大切」と示されている（文部科学省 2018）。

（2）いじめ

いじめ発生件数は、2020 年度を除いて毎年増加している。

子ども 1000 人当たりの認知件数は、2013 年度に 13.4 件であったが、2021 年度は 47.7 件である（文部科学省 2022a）

PC、スマートフォンを使用した誹謗・中傷も増加し続けている。

（3）暴力事件

暴力事件発生件数は、2013 年以降、中学校、高校では基本的に減少傾向だが、小学校では上昇傾向である。1000 人当たりの暴力行為発生件数は、中学校は 2013 年度に 11.3 件であったが、2021 年度は 7.5 件である（文部科学省 2022a）。小学校で 2013 年度 1.6 件であったが、2021 年度は 7.7 件である。

2-3. 若者のメンタルヘルス

児童生徒（小・中・高）の自殺は 2020 年度が文部科学省調査で過去最高の 415 人だった。2021 年度は 368 人である（ただし、警察庁の発表では 454 人）（文部科学省 2022a）。

小学校高学年から中学生の子どもの 1～2 割にうつ症状が出ている（2021 年 12 月調査、国立成育医療研究センター 2022）。

2-4. 教員不足の深刻化

2017 年、教員の時間外労働が多いことに注目が集まった（教員の過労死が大々的に報道された）。

2022 年 5～6 月の調査の結果：小中高の教員の、1 か月の労働時間は 293 時間 46 分であり、月間所定労働時間の 170 時間 30 分（7 時間 45 分×6 月の勤務日数 22 日）を 123 時間 16 分オーバーしている。いまだに過労死ラインの 80 時間を大幅に超えている（連合総研（JTUC Research Institute For Advancement Of Living Standards）2022）。

年度の始め（日本では 4 月）から、定員が満たされていない学校が多数ある。2022 年 5 月調査で、4.8%の学校で先生が不足している状態である（文部科学省 2022b）。

補足：

中学校の生徒数の割合（文部科学省 2021 より算出）

公立 91.6%

国立（国立大学法人の附属校）0.8%

私立 7.6%

参考文献：

文部科学省（2018）「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm（2023/1/7 確認）

文部科学省（2021）「令和 3 年度学校基本調査（確定値）報道発表資料」

https://www.mext.go.jp/content/20211222-mxt_chousa01-000019664-1.pdf（2023/1/7 確認）

文部科学省（2022a）「令和 3 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」

https://www.mext.go.jp/content/20221021-mxt_jidou02-100002753_1.pdf（2023/1/7 確認）

国立成育医療研究センター（2022）「コロナ×こどもアンケート 第 7 回調査報告書」

https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/CxC7_repo.pdf（2023/1/7 確認）

連合総研（2022）「教職員の働き方と労働時間の実態に関する調査 中間報告」

<https://www.rengo-soken.or.jp/info/68b7f47f6600bf2559e49285e8ccbf493bfb5aa0.pdf>（2023/1/7 確認）

中央教育審議会（2021）『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して 答申』

https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf（2023/1/7 確認）